027
41
1

蓬常史

027
41
1

愛知女專
第11672號
書圖

二冊

東京帝國大學圖書之印

彩二百詠

自他ニ背ク沒愛扇風と瀾ゝ　舉白

松を曲らく支掩乃恩　才丸

雨の天美山よ城と掘ひして　松濤

鼓り音の烏ゝ〳〵い歌　一晶

酒つゝよ黒鯛賓の舟よ八　丸

ゝ〳〵ゝ湘皆ゆいでやる　白

日乃隣弱乃星と弱月と　晶

わゐ海る士嶺白鳥の底　渓

掫ふて笹龍瞻の屯尋め　白

得のあと連の紹巴呑し　丸

繋ゆ練のうづるれ世保　渓

縁のさ海ふけ謎めすしん　晶

怒　ふるこハ忍やいだハ思ふかるひ　丸

生死の擠ハ銚も流むう　白

達弓の勝のかふる酢よ洗く　晶

江渓よ林摘ふるしるれ氣味　渓

比めくひ吋めも冬よ雪もみよ　白

只乃あふるのけいせいの負　丸

つぐもれる牧溪いふす七思よ　渓

ふ渓ふとふ意だちやれ笠　晶

屯の好生玉の松ふふす渓　丸

月れタふの葩さふす市　白

難の代乃女院なとめてゝ　晶
武さゝれてこの白与吉　鳴ッ　湾
果報ある狐ゝゝの子拾て　白
星よ碁を玉つゝの間　九
気ヲ煉て彌山の崩タルよ　延ス　湾
ゝゝゝと男の馬鹿れるまゝ　晶
能人を殺ス小判ハ美人ゆて　九
ゝゝゝ心おて狐ゝゝ　憂　白

道世の掘ハスアとゝ泥き者ゝ　晶
ゝゝ　かまくゝの苣とゝゝ草　湾
小蛇の名ありゝくゝゝのまれて　白
先祖ゝとゝゝゝゝ後れる子　九
月ゝ退　伯母ゝ力ゝ杖ゝゝ　湾
落のゝゝゝ　神　羽ゝゝ借　晶
ゝゝゝゝ江よ紅ゝゝゝゝ　九
八日ゝかゝゝ虹のゝゝゝ　白

湯あらの后とゝんとゝんぞんする　晶

随分の戒世の急を鄰　洸

ひとをとゝ況瞻う香の為め接　白

にくる戸の具足訝かく　丸

風のごゝゝる第ひゝゝゝ去ル　洸

羽衆よあゝゝ鞆の蠅妖　晶

倩おゝゝ鳴の千歳う舌身し　丸

垣衣ハ土の因ゝうける　白

像乃観音月よゝどゝゝん　晶

白檀流まゝ守る楪　洸

毛ゝゝ紙王ハ惰弄ゝ〇く　白

三　龍ゝ音沖ゝゝ　丸

陽風ハ町乃氷とゝかん　洸

弄とおゝゝの傘やぶりて　晶

銀杏葉よゝる寺ゝて喫ゝ　丸

うハ氣ゝ麦の晴よ吟ゝ　白

臣秀し天竜黄土音と憤ふ　晶
敷雷　玉の出るしらと裂　湾
すゆの三才泥りかるる世狭　白
物ふすれ草　阿房　生ニル　九
餅くひよいんとすん陸奥よ　湾
神　つて蝗破敷こ　晶
麻視を洗ひくるすやうを　九
そくれめりの代七夕沢せく　白

四

初月のあらるもいくく津せる哉　晶
彩うるつよ牡丹毛の骨　湾
新高と何心れく牛老命　白
面屋とうけ元日の搾　九
大黒の袴かるる春乃多　湾
新かるる毛と名代り　晶
南崇乃仙場ハ乳をかすん　九
重谷をくるる夜の日の新　白

胸さいぐ風い帳をひらすし　晶

かきて百合の花投君　湖

しるしの双六ぶを下かるし　白

捧のめしの紅毛消き　九

金魚水くれて九百十餘年　湖

尺歩ゆつくり蛾の一日　晶

月の刀沈愚ゆ苦まるひて　九

ゆめひとり大秦の秋　白

名

初葉を死ずにいちいち小松葉　晶

真白　湖

春ゆしし天竺風を身ゆ吹　白

冶郎　蝶の股ゆ葬る　九

乱るる襞ゝ旅胡桃なる女　湖

安房まるひ朧く月　晶

梅かすず百首の和歌を嘲る　九

猛を雨をきゝ通心　白

酒ノ餘盜賊を加えつゝ　晶

眼ヤ苦さもくれの龍　湖

敗亮と罪らの山よくゝみる　白

墓の樹枯ノ葉をかまくそ　元

折のる琵琶ゆ落絃ノ　湖

瑠璃ゆ鳳の咽ゆ育つて　晶

雪ノ月寒くわれの實ノ喰ノ　元

やつでよるる不受不施の菴

松濤

門さしれ涼ミ文ノ夜難ノ

一桶むすゆ隣井ノ水　其角

誠ノ蓼艸のかしくるくん　挙白

いびきゆ消む　葬ノ毛才九

秋ノ蟹蛙ノの船よろひて　角

晡ー塒　列月の二千星さる　湖

小溪の豆腐小屋を志ばしる　九

友駅　帝もめつらしき雪　白

嘉辰すゝる人々鳥のうれ声　涵

彩僧の星ヲかゝゆる　蝟　角

つゝゝゝゝゝ咀の歌ひゝやゝめ　白

真　打も紙のゝゝゝゝ成　九

陣中の盞ゝゝ　甲舞　角

千代ゝゝゝゝゝ正月　涵

老楽山子麦の二葉ゝ百ゝ　九

雪のゝゝてる漱ゝゝすん　白

芳シク　鞨　刺ゝ祀ゝゝ　涵

荒　堞　階子ゝ　角

羅漢寺の夕ゝ月と　白

盆ノ十六ノ日の　九

傍　蜉子ノ　浅茅生の小萩ヲと書リ　角

ゝゝうれて　鶏　涵

淀（トヨ）　小倉でんのうの風　九

茶は本の彩と名ぶる　曙　白

寒食の星八点　栄の鯛やすめ　湖

鵜（カツノ）　魚を祝ふ　江南の春　角

已（ソノヤウト）　乃　已待ら　耐　白

尊りてうす　石乃　灯　丸

戒名　きの　訓（ナニ）　深飛る　蛍め　角

わくれ　り　も　阪（クニ）　刺（キリ）　後　湖

言つのる恨　ために　沿いたつき　丸

そのかこ　周防　の　聳　公事　白

蓉　そこ　文字　を　都の　義　安い　湖

狩（ヒヒス）　ちる　つる　大御用　海　宮

殺（サンレイ）　所の　責を　豹（メドラ）　交（ツル）　湖

美　せ　の　ふ　ら　め　作　月　白

私　留（ホ）　ま　ま　ま　邪　ま　を　ま　ま　ぐ　る　丸

見　ら　ら　ど　藥　門　の　ま　夕　角

湖

こひしさの伊吾ぐる術あれや　九
うれと允史の心示さん　白
世の深の貪うえるもの　悲猿　潘
閑思佛　五百酒ひ〻て　角
ぬく〻と虚太空の国の中　白
坐禅とのぐく閑窓の風　九
蝿よよなし竹ヲ刈　門ぬ〻す　角
昼食かぐく落る信　潘

法山の詩ヲ病隠てあくれて　九
洞庭　ぬをてうう寸月　白
寺の鈴まぬ起と懐て　潘
古巣ワれ〻鶯の母鳥　角
脊ぬる心を絶の武よ效へ　白
ま君ぬ〻ぬ〻む　附切れ多　九
惠死ニテ廿席よりを寸つ〻　角
図一勇つ〻　夏のぬけぐ　潘

疱瘡送る御霊い都ようくも　丹

八丈草色かさす時の一時　白

小松ゝ伊勢新九郎ゆかもて　清

付り　越ノ范蠡ゞ　事　白

寸一寸いさめてもむく雲際の袖　白

あひ篠　白谷　深草乃雨　九

鄙ゝよりゝ鳴りゝを音ゆるて　白

苏ゝさい振をかざる寛潤　白

月のかる寂期の車ゝもタ、　九

秋　地をかゝて　難　入レ明　白

穀ちりて新ゝ通賛ゝ銭ナセリ　清

やし　かゞり走ゝと召ス　角

下級吏　上下　つきをわゝひて　白

出者　ものつる　茅ゝ乃孫　九

指打戸を兵まゆ忍ゝ貞暗ゝ　角

やゝ　あかれるを金より　清

常々と食の客今茅屋せと　九
朝日所とる人織多の大黒　白
塔ちくべ惜い雪の竭哉し　陵
しくれ山崎筆を森　角
賤の指世捨別言を留る　白
士の戯を第人毛の裏へ　九
朧月夜を明人乃毒さるめ　角
太師よ祈るちかしまつ乃ト　陵

十二

奇妙池の蛙ハつくえ吟すん　晶陵
月乃上ハ白ひの蛙　陵
ゆくえを背ひて狂島乃船　白
詩を写まんと松ハ吟ぶ　九
駒ノ放ツ徐毛い筆よ寄る　陵
ゆまを寸くよ清　晶

十三

淨肉を喰魚は空(ウソ)をゝるゝ　九

月の怪異(ケ)を見て立とゝぶらる　白

三浦なる和泉ゝ原のあらう　涛

長ゝ恨みつゝ　四万宮

くすゝる金杉むの世よ伊達(グテロ)　角

為さく掛(カヘリ)言いそぐ　白

天和三癸亥年　庚則上句　九

芭蕉翁門俳書目録

みなしぐり	其角輯	二冊	丙寅紀行
猿みなしぐり	同輯	二冊	虱の象
花洛足	同輯	二冊	續花洛足
梦宏袋	嵐雪輯	二冊	
蛙合の歌	芭蕉其角素堂仙化輯	一冊	
新二百歌	其角輯	一冊	
皮鯨招	涼炁輯	二冊	
挑諧小傘	初心之仕様調宝殺々象集記	一冊	

凡瀑集	一冊
其角輯	一冊
湖十輯	二冊